

□海外文献紹介□

完全非経口栄養の胃酸分泌への影響

Effect of Total Parenteral Nutrition on Gastric Acid Secretion: *G. M. Levine, J. L. Mullen, F. O'Neill* (Digest Dis Sciences 25: 284~288, 1980)

完全非経口栄養（以下 TPN と略す）が盛んに応用されているが、ヒトの胃腸系への影響がまだよくわかっていない。著者らは TPN の胃酸分泌に及ぼす影響について検索した。

対象は 10 人の患者で TPN 中に胃酸分泌を調べた。TPN の場合、1 時間に 130 ml、および 65 ml の速度で投与した。更に比較として生食液を投与した。TPN では、2 種類の注入速度共、生食液に比べて著明

な酸分泌の増加をみた。Pentagastrin に対する最大酸分泌への効果は、TPN 1 時間 130 ml の場合と生食液投与の場合で特に差異を認めなかった。退院して少なくとも 1 カ月後に行った Pentagastrin 刺激による酸分泌は、TPN 中のそれと差異を認めなかった。

TPN 液中の主なる酸分泌刺激物質はアミノ酸らしい。種々の程度の酸分泌を示す患者が混在している中で、TPN は過分泌者に最大の酸分泌刺激を示した。TPN は Pentagastrin に対する最大酸分泌量には影響を示さなかった。

興味あるのは、酸分泌を壁細胞指数として用いると、TPN が胃の萎縮を引き起こす事実を認めなかった。退院後に経口摂取するようになった患者での分泌データは、TPN

中のものと類似していた。このうち 2 人では、TPN の長期投与例で、1 人は 2 年、他は 8 カ月後であるが、経口摂取後に酸分泌は増加を示した。このデータから考えると、胃粘膜萎縮を起こすとしたら相当長期間を要することと、仮に萎縮が起こっても素早く元へもどるようだ。TPN 中の基礎分泌過多が患者に対して悪影響を及ぼすかどうかかわからないが、印象としては、TPN 中の消化性またはストレス潰瘍の頻度は低い。これについては、TPN の栄養改善効果が、酸分泌刺激を上回ることによって消化性潰瘍を防止しているのではなかろうか。TPN が膵や小腸の機能にどのように影響を及ぼすかは、検索中の課題である。

（愛知県がんセンター第 1 内科

小林世美 抄）